

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあるが面白い
いろんな人がいるが楽しい

No. 686
2024年9月

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 東京一極集中の実際
- 掲示板
- 二つの平和祈念式
- 「だからおれほど言ったのに」他
- お便りから
- 山仕事(8月、大平)
- 松枝岐張舞伎と尾瀬散策
- 伊豆長岡 葛城山

ページ
2
4
5
6
10
17
20
25

(けいじはんは
4ページに。)



8月24日現在の
会員数170名

題 字 敬 佐村隆英和尚(千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 敬 泉ゆきをさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手はふみの日

山仕事(8月、大平)

とどの夏。「8月の山仕事は、中止にしよう」という声が上がってもふしぎではない。しかし、一人として欠けることはなかった。

8月7日(水)。(天候を記す気になれない)

このところ多い列車トラブを懸念して早く出て、ノ本早い「こだま」にのる。三島駅で、思いがけず原田さんがのり込んできた。信号機故障で在来線が動かないという。ほらね。

敷地駅で正士、スミ、若林さんに迎えらる。買物の後、竹中さんも加わり5人で田んぼ畔の草刈り。次いでソバ畑の草刈り。膝の具合がよくないので、水路に面した斜面は若林さんに刈ってもらう。

この地の草を見ていると、毎年のように優生種が変わっている。今年の主力は背丈近くに伸びた禾本科の草だ。ボリュームが大きく、刈り幅を小さくしないとまき刈れない。それでも、5人がかりで18時終了。

康江さんとスミさんが用意してくれた夕食を、お母さんも一緒に頂く。

(夕) 刺し身(タコ、本マグロ)、ゴーヤのコンビーフ炒め、トマトと玉子炒め、ナスとオクラのマリネ、枝豆、もやしキムチ、キュウリの漬物に、そうめんとスミさんのかえしとだしで頂く。

今回も、いろいろと頂き物があった。

- ・ 野口多江さんから青森のリンゴジュース
 - ・ 岡本信子さんからシソジュース
 - ・ 尾上美智子さんからビールとリンゴジュース(懐しの、三水(さみず)産。いまは飯綱町となっているようだが、旧三水村は大川欽之さんの存命中、リンゴ園の手伝いに向度も行ったものだ。欽ちゃんは今、北信五岳を見度せるリンゴ園の一角に眠っている)
 - ・ 内田美智子さんから お饅頭
 - ・ 伊藤和代さんから パン
 - ・ スミさんの野菜
- お饅頭に添えられた内田さんのお便り

「暑いです。みなさんお元気で! 北海道で競走馬(サラブレッド)の老馬ホーム(!)を見て来ました。ノ頭ずつ、く畳ほどの部屋で下にゆらが敷いてありました。隅の隅にクンテがありました。昔の馬ふんと違いました。15室ほどあり、名前を覚えたのは、

I can smile.

娘のプレゼントの2泊/名12万円のツアーの宿のバイキングを食べたら、しわじわの腕のヒフのツヤがよくなりました。また粗食に戻ります。

北海道の畑は一つがとても大きく、玉ネギ、トウモロコシなど植わっていました。ファームで食べたメロン、そして北海道の牛乳とアイスクリームは、とてもおいしいと



思いました。

正士さんちの山仕事の食事は絶品です。山の樹々の美しさも！
この夜、母屋で一人寝。暑くてよく眠れず。

8月8日(木)。午前、スミさん、山本真由美さん(磐田市の地成おこし協力隊員)も加わり、茶園の整備。

午前中は「常森」の茶園で、うね間の草刈りと茶樹をつきぬけて伸びた草とりと茶葉をおひつるとり。キク科の草は背丈近くまで伸び、トゲのある草もある。茶葉の上にはびこるツル草は見つけにくくとりにくい。とった草をうね間に置くとじやまになるので、ぼくはまるめて茶樹の中に押し込んでおく。

昼、水窪(みさくぼ)町の舟屋千づるさんが、水ようかん、トマト、豆腐など持参で見える。庭にテーブルを出し、お母さんも加わり長い昼休み。

(昼) 冷やし中華、ゴーヤ・チャンプルー、トマトなど。

昼食後、山本さん帰宅。舟屋さんもお帰り。ありがとうございました。

午後、東垂れの茶園の整備。早く終って、揃って浜松市の「あらたまの湯」へ。「あらたま」は「養」のような字だが、角川の国語辞典にも岩波の広辞苑にも出ていない。天竜にも昔「あらたま川」と呼ばれたことがあるようで、「あらぶる」のような意味がわるのだらうか。

夕食は、お母さん、青山さんと一緒に。

(夕) ナス・ピーマン・玉ネギのみそ炒め、冷奴(舟屋さん持参)のとりろかけ。

冷やしトマト(舟屋さん)の玉ネギドレッシングと、ちゅうめんをスミさんのだしとあわせていただく。

この夜、母屋を網戸にして、いくら暑さを和らぐ。

8月9日(金)。この日は休養日。朝、正士さんも一緒に薄場に行き、竹中さんが田んぼに水引き柵をめぐらし、スミさんと共にハスを移植。育てたのが見事に花を開いたのを観賞。竹中さんがスギを伐り出し土台とし、床を張って席を造り椅子を並べた。短期間で繁殖し、たくさんの花をつけたのにびっくり。冷たいビールと桃が供され、素敵な一服の清涼剤となった。

竹中さん、次は小川に「川床」づくりを構想。スミさんはカワニナを求めてホテルを増やそうと願っている。桃源郷のくりに着々と進んでいますね。お手伝いをさせてください。

その後、8名揃って掛川市の山間にある「ならこ温泉」へ。昨日の「あらたまの

湯」に比べて小じんまりし人も少ないが、みなびた感じは悪くない。源泉温度
36℃、PH7.7、ナトリウム塩化物泉は、「あらたまの湯」とほぼ同じツルツル系だ。

入浴後、併設の食堂で昼食。ぼくは「海老天付き蕎麦ば」を。蕎麦は、掛川で昔から布
に織られてきた素枝だ。

正士、竹中、若林さんと別れ、久米さんに掛川駅まで送っていただく。

ありがとうございました。暑かったが楽しい三日間だった。

帰宅後、内田さんから届いたメール。

「温泉、楽しみましたね。お饅頭の主人が89歳で店をやめることになりました。
代わりの和菓子屋は見付からないので、みすず饅頭などにします。よろしく」

そうですか、銘菓の店が無くなるのはさびしいですね。「代わりは、ご無理なく」と言ひ
かけたけど、正士さんのお楽しみを奪ってはいけませんね。